

(薩摩川内市)

「紙だからこそできること」を追求し、木材資源を有効活用した事業を展開するとともに、カーボンニュートラルな社会を目指し取り組んでいます。

中越パルプ工業株式会社川内工場は、1954年12月に川内市(現:薩摩川内市)の誘致企業第一号として操業を開始しました。「紙だからこそできること」を追求し、多種多様な紙を生産しています。工場で生産した紙は、直木賞・芥川賞、本屋大賞の受賞作や映画・ドラマ等の原作本など、有名な書籍に多数採用されています。他にもファストフード店の紙袋や建物の内装に欠かせない壁紙などに使用され、身近なところで豊かな暮らしを支えています。近年は、発電事業や新素材の開発など、森林資源を有効活用した事業も展開しています。植林事業への投資も検討しており、企業活動による循環型社会の構築に取り組んでいます。



執行役員工場長 富田 実

会社概要

2022年1月現在

■所在地	〒895-8540 鹿児島県薩摩川内市宮内町 1-26
■TEL	0996-22-2211
■FAX	0996-21-1157
■E-Mail	
■URL	http://www.chuetsu-pulp.co.jp/

■代表者	執行役員工場長 富田 実
■設立	1954年(昭和29年)12月
■資本金	188億円
■従業員数	281人
■事業概要	紙・パルプ製造、発電事業
■主要製品	紙(クラフト紙、上質紙、塗工紙、特殊紙、竹紙他)、パルプ

竹を原料にした「竹紙」で地域社会の課題を解決

鹿児島県は竹林面積日本一、タケノコ生産量も全国2位を誇ります。「竹紙」は、タケノコの生産性向上のために伐採した竹の処分に苦慮していた生産者からの相談をきっかけに、竹の集荷体制を構築し、2009年より生産を開始しました。今では多くの方にご協力を頂き、年間約1万2千トンの竹を集荷しています。一方で、放置された竹林が森林や里山を浸食し、様々な問題を引き起こす「竹害」が全国的に問題となっています。今後も、大量の竹を持続的に使うことで、タケノコの生産性向上はもとより、森林や里山、生物多様性の保全など地域社会の課題解決を図ってまいります。



集荷した竹から生産した「竹紙」

脱炭素社会の実現に向けて「木質バイオマス発電設備」を稼働

鹿児島県(離島含む)を中心とした南九州の未利用間伐材の利用促進を図るため、再生可能エネルギーとして注目されている木質バイオマス発電設備を2015年11月より稼働しました。紙事業で築いた木材の集荷基盤とパルプの製造工程で発生する廃液を利用した自家発電技術を活かし、木材チップを燃料に一般家庭の約4万3千世帯分に当たる電力を安定的に発電しています。カーボンニュートラルによる脱炭素社会に貢献するとともに、森林整備の推進や関連産業の振興に寄与する事業として積極的に取り組んでいます。



木材チップを貯蔵する燃料倉庫

新素材「nanoforest」で産業の未来を切り拓く

木質繊維(パルプ)を処理してナノメートル(ナノは10億分の1)サイズまで細かく解きほぐしたセルロースナノファイバー(商品名:nanoforest)は、高吸着性・高強度等に優れた機能性と安全性から様々な分野での活用が期待されています。現在、鶏舎の環境改善資材や化粧品材料、スニーカーのラバーソール(靴底)など分野を問わず採用され、水のみを用いるナノ微細化法(水中対向衝突法:ACC法)により、食品や医療にも適用が可能です。サンプル提供も行っており、あらゆる分野で新規用途の開発が進み、産業の未来を切り拓く一助となるよう製造を行っています。



「nanoforest」サンプル